

海外安全対策情報（2020年4月～6月）

1 社会・治安情勢

(1) テロ等の傾向

ア パキスタンのテロ発生件数は、パキスタン軍等によるテロリスト掃討作戦により、2009年をピークに減少傾向にあるものの、北西部及び南西部を中心に発生しており、引き続き警戒を要する。テロ発生件数は前の期（2020年1月～3月期）から減少（41件→38件）であったが、死者は4名増加（57名→61名）、負傷者は54名減少（119名→65名）した。（当地シンクタンク「パキスタン平和研究所（PIPS）」調べ。）

また、2017年2月から開始されている軍及び治安機関等による対テロ作戦（ラッドウル・ファサード（Radd-ul-Fasaad・脅威の除去））は引き続き国内各地で実施されており、テロリストの検挙、武器等の押収等一定の成果を収めている。今期においても、単独又は少数による自爆、襲撃及び簡易爆弾（IED）攻撃が主要なテロの手段として見られ、その標的の多くは軍・治安当局とその関連施設であるが、テロ組織の中には中国・パキスタン経済回廊（CPEC）や中国関連施設への攻撃を企図する勢力もある。

イ 5月17日、テロ対策局（CTD）は、同16日夜にパンジャーブ州バハールプールにおいて、インテリジェンス情報に基づいた掃討作戦を行い、IS所属のテロリスト4名を殺害したと明らかにした。同人らが潜伏していた拠点から、手榴弾、ライフル銃、拳銃等が押収された。

5月19日、KP州警察長官（IGP）がメディアに述べたところによると、2009年に治安部隊が開始した対テロ作戦（Rah-e-Rast：正しき道）により、北西辺境州（現KP州）からアフガニスタンに逃れ、同国で訓練を受けたミリタントらが、同州スワートに再集結している。同長官は、スワートでの標的殺人への関与により逮捕された主要テロリスト4名が、取り調べ中、アフガニスタンで訓練を受けた旨自白したと明らかにした。

6月1日、ラーワルピンディー・テロ対策局は、同市Fateh Jang ロードにおいてインテリジェンス情報に基づいた作戦を実行し、パキスタン・タリバーン運動（TTP）所属のテロリスト2名を逮捕。同人らから、爆発物を含むIEDの材料等を押収した。

6月11日、軍統合情報局（ISI）及びパンジャーブ州テロ対策局（CTD）は、ラーワルピンディーにおいて合同捜査を行い、2009年に現KP州南ワジリスタン部族郡でポーランド人技師を殺害したとされる、パキスタン・タリバーン運動（TTP）所属のテロリスト2名を逮捕。同技師は、2008年9月、パンジャーブ州アトックで何者かに拉致されていた。

6月12日午後9時頃、パンジャーブ州ラーワルピンディー・サダル地区カバリ・バザール内コラ・センターにおいて、電柱付近に仕掛けられたとみられるIEDが爆発し、民間人1名が死亡、12名が負傷。

ウ 都市部や地方の別に関わらず、治安当局によるテロリストの拘束事件及び武器・弾薬等の押収事件も多く確認された。こうした状況から、治安当局による徹底した取締りが行われた一方、都市部においてもテロの脅威は存在している。

(2) 各種デモ

ア 当地では、主に金曜礼拝後、各種団体による様々なデモが行われる傾向にある。

昨年8月、インド政府が憲法を修正して、ジャンムー・カシミール州に関する特別条項を廃止したことに抗議し、「カシミールへの連帯」を標榜して、全国各地でデモが繰り返された。パキスタン政府は、毎週金曜日を「カシミールへの連帯の日」として、国民に対して抗議の姿勢を示すよう呼びかけており、大規模な官製デモに発展したこともあった。今期は低調だったが、インド政府の措置から間もなく一年を迎えるため、再度デモが多発する可能性がある。

6月30日、イスラマバードG-14地区（※当館から西18kmに位置）において、イスラマバード市当局による土地の不法使用に対する強制撤去に抗議した地元住民約400名が暴徒化し、暴徒鎮圧のための装甲車や機動隊が出動。警察当局は、鎮圧のため催涙弾を使用し、住民側から発砲されるなど緊迫したが、市当局者と地元代表者の話し合いにより事態は沈静化した。

イ 新型コロナウイルスの感染拡大を受け、各地のロックダウンによる各種営業規制及び経済状況の悪化に伴う不満がビジネス・コミュニティーを中心に生じている。これまでのところ、大規模な抗議デモ及び治安機関との衝突等は発生していないが、経済状況の悪化に伴い各種抗議活動の規模が拡大される可能性もあり、注意が必要。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 邦人被害事案

なし。

(2) 銃器使用犯罪

本期間においても、前期と同様に銃器を使用した犯罪及び押収事案が相次ぎ、特に主要道路から離れた路地等人通りが少ない場所においては、その危険性が高い。主要都市部においても、銃器を使用した強盗事件（ガンポイント）や侵入強盗事件が散発的に発生している。

5月26日夜、イスラマバードTarnol地区（※日本大使館から西南西約10km）の警察検問所が、オートバイに乗った2人組に銃撃され、警察官2名が死亡。犯人は現場から逃走した。

6月7日正午頃、KP州ペシャワールーイスラマバード間の高速道路上において、ペシャワールーインターチェンジを数キロメートルほど過ぎたあたりで、

何者からがラホール行きのバスに対して発砲。乗客3名が負傷した。

6月17日、パンジャーブ州ラーワルピンディーのトランスフォーマー・チョーク・エリアにおいて、何者かが通行人らに向けて発砲する事案が発生。通行人1名が死亡、2名が負傷。地元警察は、個人間の敵意が原因の可能性があるとみて捜査中。

治安当局は継続的な銃器の取締りに取り組んではいるものの、違法に所持し摘発されるケースが後を絶たず、違法銃器の蔓延が問題となっている。

(3) 招き入れ型侵入犯罪

イスラマバードは富裕層が多く居住しており、各家屋には警備員やドライバー等の使用人を雇っている家主が多いが、これら使用人が犯罪者側と共謀し家屋内に招き入れて犯罪に荷担する事件が時折発生している。2017年9月には、ラーワルピンディー市内において、中国人が帰宅途中に金品を強奪され、警察による捜査の結果、同人の元運転手が事件を手引きしていたことが判明した。2020年1月、イスラマバード市内において、雇用主の留守中にドライバーが700万ルピー相当の金品を盗み、その事実を隠ぺいするため留守宅を放火するという事件も発生した。また、当地警察は、ガス、電気会社の職員を装った強盗が、家主の不在間に機器の点検目的を装い家屋に進入し、金品を盗む事件が増加傾向にあるとの注意喚起を出しているため、在宅の有無にかかわらず施錠を行うほか、使用人、警備員等への指導を徹底する必要がある。

(4) 名誉殺人

当国では地方を中心に、親が認めない相手との交際などで、家族の名誉を汚したとして女性又はその交際相手が殺害される名誉殺人が跡を絶たない。今なお保守的なパキスタン社会では、毎年数百人の女性が名誉殺人の犠牲になっており、今期も凄惨な殺害事件が発生している。また、当地では親同士が本人の意思と関係なく決めた相手と結婚させるのが都市部でさえ一般的であり、それに起因するトラブルにより結婚相手やその家族・親族等からのDV被害も深刻な問題となっている。

(5) 性犯罪及び虐待

当地では、強姦を含む性犯罪及び虐待事件が頻繁に報道され、その発生件数は多いと言える。同種事件の被害者は、二次被害のおそれ等から警察に届け出ないことも少なくなく、被害実態は正確に把握できない。

(6) サイバー犯罪

パキスタン連邦捜査局(FIA)サイバー犯罪部門は、SNSを通じた詐欺投資話、違法な資金取引、児童ポルノのアップロード等、サイバー領域における監視を強化している。FIAでは、違法な手段で入手した資金がマフィアの活動資金となっているとして、摘発を強化している。

(7) その他

本期間においても連日、不法な銃器・爆発物・薬物・酒類の押収事案が報じられた。これらの事案は、厳重な警戒下にあるイスラマバード市内においても、

テロ発生の可能性は依然として排除できないことを示している。

3 2019年7月から2020年6月までのテロ事件発生状況

7月	20件、死者	38名、負傷者	111名
8月	21件、死者	31名、負傷者	83名
9月	12件、死者	19名、負傷者	27名
10月	10件、死者	10名、負傷者	19名
11月	17件、死者	27名、負傷者	38名
12月	14件、死者	16名、負傷者	24名
2020年			
1月	21件、死者	33名、負傷者	60名
2月	10件、死者	20名、負傷者	35名
3月	10件、死者	4名、負傷者	24名
4月	8件、死者	10名、負傷者	13名
5月	14件、死者	30名、負傷者	10名
6月	15件、死者	20名、負傷者	41名

(出典：パキスタン平和研究所)

4 安全を考える上で参考となる事件等（報道ベース）

*以下、パキスタンを「パ」と表示

- 4月5日、KP州南ワジリスタン部族郡において地雷が爆発し、民間人4名が重傷を負った。
- 4月8日、KP州南ワジリスタン部族郡ワナにおいて、部族の長老及び彼の息子が待ち伏せ攻撃を受け、重傷を負った。犯人1名は治安部隊の検問所で止められ殺害されたが、共犯者2名は逃走した。(
- 4月9日夜、KP州北ワジリスタン部族郡ミラーリ付近の Zekerkhel 地域において、巡回中の治安部隊とミリタントの間で銃撃戦が発生し、治安部隊2名が殉職。ミリタント7名が死亡、同3～4名が負傷。
- 4月9日夜、KP州北ワジリスタン部族郡ミラーリにおいて、何者かが廃屋に仕掛けたIEDにより、付近の検問所が爆破された。
- 4月13日、北ワジリスタン部族郡ダッターヘールの北西8キロメートルにある Dargai において、治安部隊とテロリストの間で銃撃戦が発生し、「パ」軍兵士1名が殉職、テロリスト2名が死亡。
- 4月13日、KP州北ワジリスタン部族郡において、治安部隊とテロリストの間で銃撃戦が発生し、辺境警備隊 (FC) 兵士1名が殉職、1名が負傷。
- 4月17日、KP州ブネール Elum Ghar において、警察と「パ」軍が共同で掃討作戦を実行したところ、ミリタントらとの銃撃戦が発生、警察官1名が殉職、「パ」軍兵士1名が負傷。同事案に関する犯行声明は発出されていないが、TTP所属ミリタントによる犯行とみられている

- 4月18日夜、K P州北ワジリスタン部族郡ミランシャーから西に10キロメートルの場所にある、治安部隊のBoya 検問所に対し、テロリストらが銃撃。治安部隊の反撃により、テロリスト5名が死亡。一方、同銃撃戦により、「パ」軍兵士1名が殉職、同3名が負傷。
- 4月18日早朝、K P州ラッキー・マルワト Dallokhel 村において、警察が犯罪者らの潜伏拠点を捜索、銃撃戦の末、殺人及び強盗等の罪で指名手配されていた犯罪者2名を殺害。潜伏拠点から、ライフル銃、手榴弾及び銃弾等を押収。
- 4月20日、K P州ペシャワールのAgha Mir Jani Shah 警察署管轄地において、開催されていたジルガが攻撃され、少なくとも3名が死亡。襲撃者の内4名が警察に逮捕された。
- 4月21日、K P州北ワジリスタン部族郡ミラーリにおいて、巡回中だった治安部隊車両を狙い、道路脇に仕掛けられていた遠隔操作爆弾が爆発。治安部隊1名が殉職、1名が負傷。
- 4月23日、K P州Charsadda・Sarki 地域において、テロリストの潜伏情報を得た治安部隊及びテロ対策局（CTD）は、掃討作戦を実施。銃撃戦により、「パ」軍兵士1名及びテロリストらの仲介者1名が死亡、兵士及び治安部隊計4名、並びに、同仲介者1名が重傷。
- 4月25日夜、K P州北ワジリスタン部族郡Khaisura 及びDossali 両地域において、治安部隊とテロリストの間で銃撃戦が発生、兵士2名及びテロリスト9名が死亡、兵士5名が負傷、テロリスト1名が逮捕された。同地域からは、武器及び弾薬が押収された。
- 4月25日、K P州北ワジリスタン部族郡ダッターヘール郡（tehsil）Tootnarai 地域において、巡回中の治安部隊がテロリストによる攻撃を受け、両者間の銃撃戦により、治安部隊4名及びテロリスト7名が死亡。
- 5月1日夜、K P州南ワジリスタン部族郡Ghwa Khwa の自宅付近において、何者かに銃撃されたパシュトゥン人保護運動（PTM）幹部アーリフ・ワジュールが、2日、搬送されたイスラマバード市内の病院で死亡。犯人は特定されておらず、捜査中。
- 5月3日、K P州ラッキー・マルワトにおいて、J U I - F 幹部モーラーナー・ムラード・アリーが、帰宅したところを何者かに銃撃され死亡。
- 5月4日深夜から5日未明にかけ、K P州北ワジリスタン部族郡において、標的殺害を目的とした2件の銃撃戦が発生し、ミランシャー付近のTapai 地域で2名、Shewa 地域で3名、計5名が死亡。
- 5月5日未明、K P州クラム部族郡南部Shorki 村において、シーア派モスク内に仕掛けられたI E Dが爆発し、同モスク管理人の民間人1名が負傷。
- 5月18日、K P州北ワジリスタン部族郡ミラーリ付近のEidek 市場において、遠隔操作爆弾が爆発し、「パ」兵士1名が死亡、3名が負傷。車両14台も損害を負った。

- 5月20日夜、K P州バジョール部族郡 Khar 郡 (tehsil) において、Sharif Khana 地域の予防接種拡大普及計画 (E P I) に従事する医療関係者1名が、何者かに銃撃され死亡。犯行声明等は発出されていない。
- 5月21日、K P州バジョール部族郡 Khar 郡 (tehsil) Nawagai 地区 Hilalkhel 地域において爆発が発生し、民間人1名が死亡、1名が負傷。
- 5月22日夜、K P州バジョール部族郡の Inayat Kallay バザールにおいて、何者かが発砲し、民間人2名が死亡、2名が負傷。同バザールは、イード前の買い物客で混雑していた。犯人は逃走中で、犯行声明等は発出されていない。
- 5月22日夜、K P州コハート Lachi 郡 (tehsil) において、定期巡回中の警察官が犯罪組織により銃撃され死亡、同行していた警備要員が負傷。犯人2名は、その後の地元警察による掃討作戦において殺害された。
- 5月25日夜から26日未明にかけ、K P州北ワジリスタン部族郡において、標的殺人及び爆発事案が立て続けに発生し、計4名が死亡。Hasokhel 村の道端で、男性3名が何者かに銃撃され死亡、Moberak Shahi 村において、男性1名が何者かに射殺された。また、ミラーリにおいて、治安部隊の車両付近で道路脇に仕掛けられたIEDが爆発。死傷者は出なかった。
- 5月27日、K P州バジョール部族郡 Salarzai 郡 (tehsil) Gardao 地域において、アフガニスタン・クナル州方向から発射された2発の迫撃砲により、民間人1名が死亡、1名が負傷。犯行声明は発出されていない。
- 5月29日、パンジャーブ州ファイサラバード Bahlak 地域において、少なくとも11名の武装集団が警察チームを銃撃し、現場から逃走する事案が発生。警察チームは、武装集団らが同地域の家屋を襲撃しているとの通報を受け、現場に駆けつけたところ銃撃を受けた。
- 5月31日、K P州ブネール Malakand 地区において、同地区テロ対策局 (CTD) と同州スワート所属のミリタントの間で銃撃戦が発生。ミリタント全3名が射殺された。
- 6月1日、K P州マルダンにおいて、Butsari-Ghari Kapura ロードで掃討作戦を実施していた地元警察が通行車両を停止させたところ、同車両に乗っていた武装犯らが警察に対して発砲。両者間の銃撃戦により、武装犯1名が死亡。共犯者2名は現場から逃走した。
- 6月4日午後5時頃、K P州バジョール部族郡 Khar 郡 (tehsil) から約12キロメートルの場所にある Mamund 郡 (tehsil) において、IEDが爆発し、オートバイに乗っていた民間人2名が死亡。
- 6月7日、K P州ペシャワール Swati Phatak 地域において、当事者不明の銃撃戦が発生し、民間人2名が負傷。
- 6月9日、K P州ペシャワールにおいて、警察検問所への手榴弾攻撃等、同市での複数のテロ事案に関与したテロリスト8名が、地元警察によって逮捕された。同テロリストの内4名は、同州ハヤタバード付近のハイバル地区からペシャワールへ、オートバイで向かっていたところを止められ、警察に発砲。銃

撃戦の末、逮捕された。

- 6月10日、K P州北ワジリスタン部族郡ミランシャーから東に約15キロメートルの Tapai 地域において、IEDが爆発し、付近を定期巡回していた「パ」軍の不発弾処理班のメンバー2名が死亡、4名が負傷。
- 6月11日夜、K P州北ワジリスタン部族郡のミラーリ近郊 Khaisor Katera 地域において、ミリタントらが治安部隊を襲撃し、兵士1名が死亡。ミリタントらは、無人の検問所も爆破した。その後、両者間で銃撃戦が発生した。
- 6月12日、K P州タンク Barrakhel 村において、テロ対策局（CTD）が銃撃戦の末、パキスタン・タリバーン運動（TTP）Sajna グループに所属しているとされるテロリスト1名を射殺。同人は、複数のテロ行為に関与していたとされ、法執行機関によって指名手配されていた。同人は、手榴弾2発、ライフル銃及び弾薬が押収された。
- 6月19日夜、K P州ラッキー・マルワトのラッキー市において、警察と指名手配犯3名の間で銃撃戦が発生し、犯人1名が死亡。同人は、強盗、殺人未遂及び警察への攻撃によって指名手配されていた。他の2名は現場から逃走した。
- 6月21日、K P州北ワジリスタン部族郡の南ワジリスタン部族郡との境界線付近、Ghariom の南東5キロメートルの場所において、テロリストらが巡回中の治安部隊を銃撃。「パ」軍司令官1名及び兵士1名の計2名が死亡、計2名が負傷。テロリスト1名も死亡した。同日、同部族郡ミラーリの複数か所においても治安部隊とテロリスト間で衝突が発生し、司令官1名を含むテロリスト計2名が死亡、「パ」兵士計2名が負傷した。ミラーリ付近では、軍車両近くで遠隔操作爆弾が爆発する事案も発生したが、負傷者は出なかった。犯人は未だ逮捕されていない。
- 6月22日、K P州クラム部族郡の郡庁所在地パラチナル（Parachinar）において爆発が発生し、警察官1名及び通行人1名が負傷。Mazdoor チョーク付近にゴミと一緒に捨てられていた爆発物が爆発したとみられている。
- 6月22日、警察はK P州バジョール部族郡 Mamond 郡（tehsil）において、同郡の長老の自宅玄関に仕掛けられていたIEDを無害化し、取り除いた。
- 6月23日、K P州ペシャワール郊外の Mattani 地域において、内報を受けた警察のテロ対策局（CTD）が、ミリタントの隠れ場所に対する掃討作戦を実行。同作戦により、ミリタント4名が殺害され、大量の武器が押収された。ミリタント2名は現場から逃走した。
- 6月25日、K P州バジョール部族郡 Nawagai 郡（tehsil）Charmang 地域 Hilalkhel において、アフガニスタン・クナル県の国境地域を拠点とするテロリストらが一方的な越境攻撃をしかけ、労働者4名が重傷を負った。
- 6月26日、K P州北ワジリスタン部族郡ミラーリの Khadi 地域において、遠隔操作爆弾による爆発が発生し、巡回中だった治安部隊2名が負傷。
- 6月26日夜、K P州マルダン Bagh Koroona において、J I の地域指導者

である元郡長 (tehsil nazim) の集会所 (hujra) 玄関に何者かが仕掛けた I E D が爆発し、8 歳の子供 1 名が負傷。

- 6 月 2 7 日、K P 州ハイバル部族郡 Landi Kotal Bazaar 付近のくず鉄屋内において、手榴弾が爆発し、Bazaar-Zakhakhel 平和委員会のボランティア 2 名が負傷。
- 6 月 2 9 日、K P 州北ワジリスタン部族郡グラーム・カーンにおいて、道路脇に仕掛けられていた I E D が爆発し、定期巡回中だった辺境警備隊 (F C) 隊員 2 名が負傷。
- 6 月 2 9 日、アフ・パク国境付近の K P 州北ワジリスタン部族郡 Spinwam 地域において、テロリストらが警察署を襲撃。死傷者はなく、警察官らは報復攻撃を行った。

5 誘拐・脅迫事件発生情報

当地では、パキスタン人が誘拐される又は誘拐後に殺害されて発見される事件が頻繁に発生している。誘拐・脅迫事件の背景としては、テロ組織による、誘拐事件を利用した政府等への身代金等の要求又は資金稼ぎを目的として犯行に及ぶケースの他、一般犯罪者が、強姦等の性犯罪や身代金目的で行うケースがある。このような誘拐事件は、解決までに多大な労力・時間を要すると共に、誘拐された被害者が殺害される可能性もあることから、事件に遭わないための安全対策が重要である。今期も、6 月 1 5 日、イスラマバード国際空港へ到着したパキスタン人男性が、空港送迎の車両に乗り込んだところ、3 台の車両に「新型コロナウイルスの感染確認を行う。」との口実で、無理矢理車両から降ろされ誘拐された。空港送迎の運転手はその後解放されたが、男性は行方不明。身代金目的の誘拐とみて警察が捜査中。その他、女性や子供が性犯罪目的で誘拐される事件が多く報道された。

6 日本企業の安全に関わる諸問題

これまでのところ、邦人及び日系企業に対する脅威情報には接していないものの、2017 年 5 月にはクエッタにおいて中国人の誘拐・殺害事件が発生したほか、同年 7 月にも、カラチ市内の幹線道路において中国人技術者を対象とした爆発事件が発生するなど、外国人が、事件に巻き込まれるケースも発生している。

6 月 2 9 日午前 1 0 時頃、シンド州カラチのパキスタン証券取引所 (P S X) を 4 人のテロリストが襲撃し、警官 1 人、警備員 4 人、市民 1 人が死亡、3 人の警官が負傷した。テロリストは手榴弾と自動小銃で武装しており、手榴弾を使用して攻撃を開始し、その後、証券取引所の入り口に発砲、敷地内に突入しようとしたが、治安部隊によって 4 人全員射殺された。多くの従業員が新型コロナウイルスの影響により自宅で働いていたため、敷地内の人々の数は通常の 6、0 0 0 人より少なく、テロリストのうち 1 人が敷地内に入ったが、入り口付近で治安機

関に射殺されたため、取引に大きな影響を与えなかった。本件襲撃に関し、バロチスタン解放軍（BLA）が、犯行主体であること及び引き続き、攻撃対象に中国権益を含めるとの主旨の犯行声明を発出している。

活動地域の最新の治安・安全情報の入手を欠かさず、安全を第一に考えた行動方針を定め、先ずは事件に遭遇しないための対策を講じるとともに、万が一の事態を想定した具体的な警備・連絡体制を確立することが重要である。

また、当国政府の政策として、外国人の入域を制限している地域が国内各地に存在し、そのような地域に政府からの事前の許可を得ず（又は事前通報をせず）入域した場合には、現地治安当局による安全対策がなされないばかりか、速やかな退去を命ぜられ、また犯罪に巻き込まれた際に通常の警察活動が期待できない場合があるので、当国政府の規定に従い、事前に然るべき手続きを行うことが必要である。なお、手続きを行ったにもかかわらず、政府からの入域許可が得られない場合には、安全上の問題が生じる可能性があるため、当該地域への入域は控えることが望ましい。

(以上)